

《 VI 研究 》

1 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成18年度～20年度専任教員の研究実績表（学科等の順に記述）

学科名等	氏名	職名	研究業績					国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	展覧会 演奏会 等	その他			
学長	波田 重熙	教授	1	2	3	0	0	有	有	
総合生活学科	浅木森 和夫	教授	0	1	0	0	1	有	有	
総合生活学科	谷山 澤子	教授	4	1	4	0	1	有	有	
総合生活学科	中川 伸子	教授	0	4	4	0	0	無	有	
総合生活学科	長瀬 荘一	教授	8	24	0	0	1	無	有	
総合生活学科	林 孝三	教授	0	0	0	7	0	無	有	
総合生活学科	武藤 美也子	教授	0	2	4	0	1	無	有	
総合生活学科	岩中 貴裕	准教授	1	7	4	0	0	無	有	
総合生活学科	細見 和子	准教授	4	6	8	3	1	有	有	
総合生活学科	本保 弘子	准教授	0	2	0	0	0	無	有	
総合生活学科	倉本 百合子	講師	0	0	0	0	2	無	無	
総合生活学科	黒田 しづえ	講師	0	6	9	0	0	無	有	
総合生活学科	古田 貴美子	講師	0	2	3	0	0	無	有	
食物栄養学科	上野 和廣	教授	1	1	0	0	2	無	無	
食物栄養学科	遠 牧子	教授	1	5	4	0	1	無	有	
食物栄養学科	西川 貴子	教授	2	4	3	0	13	無	有	
食物栄養学科	森下 敏子	教授	2	8	9	0	4	有	有	
食物栄養学科	井上 吉世	准教授	0	4	3	0	0	無	有	
食物栄養学科	田中 智子	准教授	0	6	3	0	0	無	有	
食物栄養学科	平野 直美	准教授	1	3	1	0	41	有	有	
食物栄養学科	森内 安子	准教授	0	1	1	0	0	無	有	
食物栄養学科	今本 美幸	講師	0	4	4	0	10	無	有	
食物栄養学科	中尾 美千代	講師	0	3	4	0	15	無	有	
幼児教育学科	羽多 悦子	教授	1	0	0	5	4	有	有	
幼児教育学科	水島 賢太郎	教授	0	1	0	0	2	無	有	
幼児教育学科	山口 芳弘	教授	2	1	8	0	0	無	有	
幼児教育学科	庄司 圭子	准教授	0	0	2	0	16	無	有	
幼児教育学科	高瀬 陽子	准教授	0	1	0	0	3	無	有	
幼児教育学科	長谷川 美和	准教授	0	1	0	5	1	無	無	
幼児教育学科	廣田 周子	准教授	0	0	1	0	0	無	有	
幼児教育学科	別所 須実子	准教授	0	0	0	5	0	無	有	

幼児教育学科	三木 さち子	准教授	0	2	0	0	2	無	有	
幼児教育学科	宮内 真知子	准教授	0	0	0	0	1	無	有	
幼児教育学科	米山 富士子	准教授	0	4	1	0	0	無	有	
幼児教育学科	畠山 由佳子	講師	0	5	4	0	0	無	有	
幼児教育学科	矢木 昌子	講師	0	0	0	0	11	無	有	

専任教員の研究活動は、他の短期大学と同様、学生指導を含めた教育活動重視の傾向と学務分掌に係る業務の増大によって、教員が希望するだけの時間を割きにくい状況が生まれている。本学の教員が各種の学内業務に従事しながら、まずは講義・演習・実習等の授業の充実を図ろうと努力している実態からみて、上記の研究実績は一定程度の評価が得られるものとする。しかし大学教員の教育活動は本来、確かな研究活動の基礎の上に成り立つものであり、自己研鑽という意味を含めて、各自の主体的な努力によって研究活動の更なる充実を図る必要があると考えている。

◆参考資料 14 (再掲)「教育研究業績書」参照。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

昭和 29 年に「神戸女子短期大学学会」を組織し、毎年、機関誌「論攷」を発行してきた。投稿資格は、正会員（現職の教員）と正会員の指導を受けた学生及び正会員の共同研究者とした。投稿原稿には査読を行い、論文内容の質的向上を図ってきた。現在は、学務分掌組織に研究紀要編集委員会を設けて教員の研究活動を推進すると共に、研究成果を発表する場として研究紀要「論攷」を発刊し、巻末には 1 月から 12 月までの教員の研究活動（社会的活動を含む）を掲載している。第 50 巻記念号には、第 1 巻から第 49 巻までの計 573 編の論文等のタイトルを掲載した。

本学教員の履歴や教育研究活動、社会的活動はデータベースとして整備されており、教員は学内外から Web ページの操作により随時、自分のデータを改訂することができる。

◆参考資料 49「神戸女子短期大学研究紀要（論攷）投稿規定」参照。

50「神戸女子短期大学紀要（論攷）執筆要領」参照。

51「神戸女子短期大学論攷第 50 巻記念号（平成 17 年刊）」参照。

(3) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択状況（平成 18 年度～20 年度）

(件数)

外部資金調達先等		18 年度		19 年度		20 年度	
		申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金		9	1	10	1	11	1
その他の外部研究資金	調達先・資金名等 財団法人日本ユニホームセンター	0	0	1	0	0	0
	エリザベスアーノルド富士財団	0	0	1	1	1	1

◆参考資料 52「神戸女子短期大学 外部研究資金採択状況一覧」参照。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

平成 17 年施行の食育基本法に伴い、地域社会に食や健康に係る最新情報を提供し、食育を推進することを目的にして、食物・栄養・教育分野の教員が「健康・食育研究会」を結成した。構成員は食物栄養学科 4 人、幼児教育学科 4 人、総合生活学科 1 人の計 9 人である。平成 17 年 8 月に神戸市・神戸市教育委員会後援で第 1 回食育シンポジウム「幼児期の食を考える」を開催した。以後、平成 18 年度に第 2 回食育シンポジウム「子どもたちに豊かな食卓を」、19 年度に第 3 回食育シンポジウム「次代に伝えたい食」(フードスペシャリスト協会共催)、20 年度に第 4 回食育シンポジウム「食の安全と食育」(全国栄養士養成施設協会共催)を開催した。参加者は保育園・幼稚園・小学校関係者、栄養士、行政関係者、地域住民、学生で、毎回約 80~100 人が参加している。

また総合生活学科と神戸女子大学のジョイント研究では、本学総合生活学科教員 1 人と神戸女子大学教員 3 人、他大学教員 1 人の計 5 人による介護過程の展開の講義・演習・実習・評価の統合をめざす I T 教材の開発研究が行われている。これは、E-learning を活用した学生の習熟度の構築と評価に有効な介護教育プログラムの教材開発であり、平成 20 年度科学研究費基盤研究 C に採択された。

◆参考資料 53「第 1 回~4 回食育シンポジウム案内リーフレット」参照。

2【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去 3 ヶ年（平成 18 年度~20 年度）の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

訪問調査時に、以下の資料を提示する。

- ・行吉学園個人研究費規程
- ・行吉学園研究旅費規程

第 VIII 章で述べる通り、現在は「学園収支緊急改善宣言」が進行中であるため、個人研究費、研究旅費の支給率が 50%となっている。

◆参考資料 54「行吉学園個人研究費規程」参照。

55「行吉学園研究旅費規程」参照。

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去 3 ヶ年（平成 18 年度~20 年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

教員の研究成果発表の場として研究紀要「論攷」があり、平成 20 年度に第 54 巻を刊行した。投稿は「神戸女子短期大学研究紀要投稿規定」「神戸女子短期大学研究紀要（論攷）執筆要領」に基づき、本学に所属する教員・助手等が発表することができる。過去 3 ヶ年の論文掲載数は、第 52 巻（報文 4・ノート 1・資料 5・計 10 編）、第 53 巻（報文 2・ノート 4・資料 5・計 11 編）、第 54 巻（原著 1・ノート 4・資料 3・計 8 編）である。巻末の研究活動欄には、1 年間（1 月～12 月）の各教員の活動内容を＜著書＞＜論文＞＜調査報告書＞＜学会発表＞＜講演＞＜社会活動＞＜作品＞＜その他＞に分けて掲載している。また、研究談話会（就任記念講演や退官記念講演）の記録も残している。

◆参考資料 56「神戸女子短期大学研究紀要（論攷）第 52～54 巻」参照。

（３）教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成 20 年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

各教員は、配分研究費の中から必要に応じて機器、備品、図書等を購入している。これとは別に、平成 20 年度に購入した主な教育研究用備品は以下の通りである。

教育研究用機器・備品	分析用天秤	¥168,000
	自動秤量希釈装置	¥453,000
	超音波ホモジナイザー	¥519,000
	アップライトピアノ	¥904,550
	OCR（光学式文字読取り機）	¥1,050,000
	ドキュメントスキャナー	¥735,000
	図書館書架	¥5,355,000
	計	¥9,184,550
図 書	教育用図書	¥12,804,683
	消耗図書	¥1,548,292
	計	¥14,352,975

（４）教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

研究室、実験室等の状況

ア．研究室の基準は、教授、准教授、講師については 1 室あたり 15 m²の個室であり、助手については共同使用を原則として 1 室あたり 15～30 m²としている。

イ．実験室は教員研究専用でなく、授業と共用である。主な実験室は、以下の通り。

- A308 染色実習・被服材料学実験室・（実験台・恒温機等設置）
- A711 食品化学実験室（実験台設置）
- A712 生化学実験室（実験台設置）
- A713 生理学実験室（実験台設置）
- A413 PC共同利用室（PC・プリンター設置）
- A815 PC共同利用室（PC・プリンター設置）

研究室は、今のところ量的な逼迫状態にはない。助手については主たる職務に応じて研究室を措置する方針から、現状に問題は生じていない。実験室についても、効率性の

観点からも共用方針を続けていく。いずれも質的な維持と向上が課題と考えている。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

本学では、教員全員（助手については、研究助手・準研究助手に限る。）に対して、週1日の研修日が与えられ、研究時間が確保されている。

3【特記事項について】

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

行吉学園では専任教員の学術研究奨励のため、個人研究費また研究旅費の他に行吉学園出版助成費規程と行吉学園研究助成費規程を設けている。神戸女子短期大学と神戸女子大学の専任教員に応募資格があり、同一の基準で審査される。予算規模は年額5,000万円である。更に、科学研究費補助金申請者には一律50,000円の個人研究費が加算される。これに加えて、科学研究費補助金の交付を受けた場合には、年間20万円を限度に科学研究費の10%相当額が支給される。これについては、民間助成団体が公募する研究助成金についても同様の扱いをしている。

◆参考資料 54（再掲）「行吉学園個人研究費規程」参照。

55（再掲）「行吉学園研究旅費規程」参照。

57「行吉学園出版助成費規程」参照。

6（再掲）「行吉学園研究助成費規程」参照。

58「行吉学園研究助成費に関する内規」参照。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし。